

# ソーシャルマーケティング手法を用いた 産業保健に関わる保健師および担当者のための ウイルス性肝炎対策 Q&A 集作成を目指した調査研究

研究代表者	佐賀産業保健総合支援センター	産業保健相談員	江口有一郎
研究分担者	佐賀産業保健総合支援センター	所 長	徳永 剛
	佐賀産業保健総合支援センター	産業保健相談員	後藤 英之
	佐賀産業保健総合支援センター	産業保健相談員	木村 裕美
共同研究者	佐賀大学医学部附属病院肝臓・糖尿病・内分泌内科 病院助教		岡田 倫明
	小城市民病院産業保健師		岩永 美紀
	(医)ロコメディカル江口病院産業保健師		堀江 弘子
	佐賀市立富士大和温泉病院産業看護師		野田 麻由
	キャンサースキャン(株)リサーチディレクター		遠峰 良美
	キャンサースキャン(株)リサーチャー		川本彩多利

## 1. はじめに -本事業の目的-

ウイルス性肝炎は国内最大級の感染症と言われており、平成22年1月には肝炎対策基本法が施行され、総合的な対策の推進が進められている。

これまで職域においてもウイルス性肝炎対策に関して行政からも協力の要請が行われてきた。具体的には、職域でも労働安全衛生法に基づく健康診断に合わせて肝炎ウイルス検査を実施し、陽性の場合は精密検査や治療への特段の配慮が求められている。一方ではプライバシー保護の観点から肝炎ウイルス検査や陽性時の保健指導等は労働者の個別の同意に基づいて実施することなどへの配慮が求められている。

佐賀県は肝がん粗死亡率全国ワースト1位が16年連続続いており、県全体で一体となつてのウイルス性肝炎対策が求められる。特に、平成26年度の佐賀県における職域での肝炎ウイルス陽性者の精密検査受診率は37%に留まり、職域における肝炎対策が県にとって重要な課題として挙げられている。職域においては、実際に労働者に接してウイルス性肝炎を含む健康管理の意義の説明や保健指導を行う役割として職域にかかわる産業保健師の活躍が期待されているが、職域における産業保健師のウイルス性肝炎対策の在り方については明確ではない。

そこで、職域におけるウイルス性肝炎対策に対してより実効性の高い具体的な「職域におけるウイルス性肝炎指導 Q&A 集」作成の必要性は高い。今後、より実

効性のある陽性者フォローアップを実施するために、まず産業保健の現場における課題を明確にした上で、それぞれの課題を解決するための優良事例を収集し、産業保健師を対象としたマニュアルを作成・配布することでそのノウハウを共有し、産業保健師のスキルの底上げを図るものとする。

## 2. 研究方法

### 2.1. 課題の洗い出し

産業保健に携わる保健師計19名を対象とした肝炎フォローアップに関するワークショップを開催（平成27年11月25日）し、産業保健の現場における悩みや障害を収集し、課題の明確化を行った。ワークショップでは、通常業務をともにしていない保健師6~7名のグループで、肝炎対策における課題や悩み、また効果的だった事例について共有し、発表してもらった。

### 2.2. 優良事例の収集

2.1で明らかにした課題に対して、対策が上手くいっている医療機関3カ所に協力を依頼し、保健師もしくは看護師（計3名）を対象としたインタビュー調査（60分/1名）を実施した。個別医療機関の背景を考慮しつつも、有効なフォローアップ施策のエッセンスを抽出した。

### 2.3. 「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」の開発・配布

2.1で明らかにした課題や2.2で収集した優良事例を基に、産業保健に携わる保健師および担当者に向けた「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」を開発した。監修は、佐賀産業保健総合支援センターの産業保健相談員3名が行った。

#### 2.4. 倫理的配慮

研究対象者に対する人権擁護上の配慮及び調査協力事業場に対する競争上の地位への配慮としては、ワークショップや聞き取り調査で得られる対象者や関わる事業場、事例となった個人が特定されることが無いように、匿名での記録に細心の注意を払いながら調査研究を実施した。また、ワークショップや聞き取り調査の対象者に対しては、インフォームド・コンセントの受領に関する手続きとして、説明文書を示した上で、口頭による説明を行い、自由意志に基づき書面による同意を得た。

### 3. 結果

#### 3.1. 産業保健の現場での肝炎対策における課題

産業保健に携わる保健師を対象としたワークショップを通して、肝炎対策を行う上で3つの課題が抽出された。1点目は、陽性者に専門医の受診（精密検査）を勧めても実際の受診に至りにくいこと、2点目は、そもそも労働者の中で肝炎ウイルス検査を未受検者のものが未だにいること、最後は、労働者の肝炎ウイルス検査の受検の有無や陽性者のその後の受診状況が把握できないため、フォローアップを行うべき対象者を特定できないというものであった。

#### 3.2. 優良事例の収集

職域検診における肝炎対策が上手くいっている3医療機関の保健師／看護師へのインタビュー調査を通して、ワークショップにて把握された3つの課題への効果的な施策を収集した。いずれの医療機関でも、保健師／看護師による効果的なコミュニケーションに加え、「医療機関リスト」や郵送時に同封する「検査結果の見方」といったサポートツールの活用や、次年度の健康診断時、事前にフォローアップが必要な陽性者を把握し適切な対応が取れる体制作りなど、様々な施策を実施していた。

特に興味深い事例としては、職域においては、労働者は毎年同じ健診センターもしくは医療機関で健康診断を受診するケースが多くみられるため、インタビューを実施したいずれの医療機関においても、そうした状況を活かし、次年度の健康診断時、事前にフォローアップが必要な陽性者を把握して適切な対応が取れる体制を取っていたことであった。健診時のアンケート等を活用することで、健診センターにおいても同様の体制を整えることは可能だと思われる。

#### 3.3. 「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」の開発

3.1で明らかになった課題および3.2で収集した優良事例に基づき、産業保健に携わる保健師および担当者を対象としたマニュアル（図1-A5サイズ・全6ページ）を作成し、6,000部の印刷・製本を行った。



(図1)

#### 4. 研究成果の活用予定

「ウイルス性肝炎フォローアップマニュアル」は、平成28年度以降、佐賀県の産業保健に携わる保健師および担当者に配布される予定である。

#### 5. 結果と考察

本研究で作成されたマニュアルにより、産業保健の現場において、先進的な肝炎対策における取り組み事例やノウハウが共有され、産業保健師のスキルの底上げが期待できる。今後も継続して、佐賀県における職域での肝炎ウイルス陽性者の精密検査受診率の追跡調査を行い、その効果を検証するものとする。